## 属人区長の書簡 (2013年8月)

属人区長はヨハネ・の取った。 の取とドンでは、いてのいる。 で開催されたがいる。 で開催されたがいる。 で開催されたがいる。 で開催されたがいる。 で開始のででである。 でだいる。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがい。 でがい。 でがい。 で

2013/08/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

8月と言えば、特に貴いお方である会と言えば、特に貴いお方では教らします。聖母を思からせます。聖れからです。特にこれを三れたことがある会の一とものがあるをです。ないはいるのではいいにのはいいにのはいいにのはいいにのはいいにのいるとなるのです。

ワールドユースデーが終わったばか りのブラジルの地からしたためま す。教皇様のお傍近く、リオデジャ ネイロに集まった多くの司教や司 祭、そして信徒の大群衆と共に過ご した密度の高い霊的な数日でした。 私は、皆のお祈りと仕事に伴われて、私たちに、そして付き合っている人々に、霊的にも人間的にも実りが溢れるほどもたらされるよう主にお願いしました。どうか、聖霊が数知れない人々の心に播かれた神の種子が、教会と全世界の善のために実り豊かなものとなりますように。

先月は神の賜がふんだんにもたらされました。まず、回勅Lumen fideiが出たことです。これによったまって教士フランシスコは、ベネディクトでの出た対神徳についての回まが始められた対ました。この財を完成なさいました。こかと黙想するよう勧めます。知性を光で満たし、心を燃え立たせて、新たな福音宣教により熱かです。

回勅が交付された5日はまた、ドン・アルバロの列福決定に扉を開いた奇跡と、ヨハネ・パウロ二世の列聖のための奇跡が教皇庁から承認さ

れた日でもありました。教皇庁が同 じ日にこの二つのことを承認した特 別の巡り合わせを、あの偉大な教皇 様と、オプス・デイの先陣に立って いた、私の前任者との霊的な一致を 表わしているかのようで、大変嬉し く思いました。

教皇様は回勅で、イエス・キリストへ の信仰と主が啓示されたことは、使 徒の時代から無傷で保たれているこ とを、思い起こさせておられます。 「どうしてそれが可能なのでしょう か。どのようにして、何世紀にも 亘って『真のイエス』にたどり着く ことができるのでしょうか。| [i] こ の質問に現代の多くの人たちが答え ていますが、根本的には一つのこ と、教会を通して行き着くことがで きるのです。「教会は、全ての家族 に見られるように、記憶に留めてい る内容を子どもたちに伝えます。ど のようにして、信仰の遺産を全て失 うことなく、というよりも、それを

深めつつ、伝えることができるのでしょうか。それは、聖霊の働きによって教会に保存されている使徒的伝承を通してなされます。」[ii]

特に信条と信仰の教義を表明する教 導職の諸文書の伝達は、常に現行的 です。ですから、これからの数ヶ月 間、「カトリック教会のカテキズ ム」とその「要約」に助けられなが ら「クレド」の理解を深めるよう努 めましょう。喜ばしいことに私たち の信仰は、典礼暦に表れる聖人たち の生活にも輝き出ています。愛する ドン・アルバロの取り次ぎによる奇 跡は、「福音のように古く、福音の ように新しい」[iii] オプス・デイの 精神を実行していくよう改めて励ま してくれます。日常生活において聖 性を求めることは、神が、聖ホセマ リアと多くの人々の魂を形成するた めに創立者に託されたものでした。 この知らせが公表されたときすぐに 勧めたことですが、ドン・アルバロ

の聖なる応え方をより深く究めるようにしましょう。ドン・アルバロは、どこまでも神と教会および教皇様に忠実を尽くし、聖ホセマリアから受け取ったオプス・デイの精神を全面的に自分のものとされ、それを私たちに十全な形で伝え続けられたのです。

次に、教会のもう一つの特徴である 聖性について考察したいと思いま す。ベネディクト十六世は、この現 実を享受するよう助けるため、信仰 年において「決定的に重要なこと は、信仰の歴史をたどり直すことで す。信仰の歴史は、聖性と罪がより 合わされた、はかりしれない神秘に よって特徴付けられているからで す | [iv]と述べていらっしゃいま す。教会の教義や制度の中に、また その歴史を彩る多くの息子たちや娘 たちの中に表れている聖性について 考察すると、聖性の源である三重に 聖なる神に心から感謝し、私たちに

対する聖三位一体の愛のうちに入り 込むように促されるでしょう。どの ように神の各ペルソナにより頼んで いるでしょうか。各ペルソナを区別 して愛する必要性を感じているで しょうか。

「神の民」という表現は旧約聖書からの引用です。ヤーウェはご自分の 民として特別にイスラエルをお選び になり、イエス・キリストが十字架の いけにえを通して築かれるはずの最

終的な「神の民」を予告し、その前 表とされました。「あなたがたは、 選ばれた民、王の系統を引く祭司、 聖なる国民、神のものとなった民で す。それは、あなたがたを暗闇の中 から驚くべき光の中へと招き入れて くださった方の力ある業を、あなた がたが広く伝えるためなのです。」 [vi] 「惨めさだらけの人間が構成す る『聖なる民』。この一見して矛盾 と思えることが、教会の秘義の一面 です。教会とは、神的であると同時 に人間的なものです。それは人間が 構成するものですが『すべて人間は 土であり、灰である』(シラ書17.31) と言うように、その人間が欠点だら けであるからです。| [vii]

このような状態は、痛悔し、愛から苦しみ、償うよう私たちを促しこそすれ、落胆したり悲観的になったりする原因には決してなりません。イエスご自身が、教会を麦と毒麦が一緒に生え出る畑に、また、よい魚も

悪い魚もすべてすくい上げる地引き 網にたとえ、最終的なそれぞれの選 別は、ただ世の終わりに行われると 言明していらっしゃることを決して 忘れてはなりません[viii]。同時に、 この地上においても、時として定か でないことがあるとしても、善は悪 に勝り、恩恵は罪よりも遙かに強い ことを知ることができます。「今も 昔も、個人的な聖性が人目を引くこ とはありません。往々にして、私た ちと一緒に働き、共に生活している 平凡で聖なる人々には気づかないの です。現世的な目で見る限り、忠実 に反することや罪しか目につきませ ん。一般に、人目を引くのはこうい う事柄なのです。」[ix] 主は、オプ ス・デイにおける娘たちや息子た ち、その他のキリスト信者たちが、 「聖性に向かうよう主に召されてい るゆえ、精いっぱい恩寵に応え、自 ら聖人になるよう努力しなければな らないこと」[x]を全ての人々に思 い起こさせるようお望みです。

教会は「キリストの神秘体」です。 「時の流れの中で、主イエスはご自 分の満ちあふれるところから流れ出 る諸秘跡によってご自分の教会を形 成される。教会はこれらの秘跡により、自分のメンバーがキリストの死 と復活の秘義にあずかり、教会に生 命と発展を与える聖霊の恩恵にあず

教会は、「自分のふところに罪人を

かるようにする。| [xi]

自分の子らをいやす権能を有しているのである。」[xii]

「第一に、からだは生きた現実を思 い起こさせます。教会は援助団体で も文化団体でも政治団体でもありま せん。むしろそれは、歴史の中を歩 み、活動する、生きたからだです。 このからだにはイエスという頭があ ります。イエスがこのからだを導 き、養い、支えるのです。(・・・)か らだにおいては血液の循環が生きて いくために重要です。それと同じよ うに、わたしたちも、イエスに自分 のうちで働いていただかなければな りません。イエスのことばに導いて いただかなければなりません。イエ スの聖体の現存によって養われ、励 まされなければなりません。イエス の愛が隣人を愛する力とならなけれ ばなりません。それも、つねに。親 愛なる兄弟姉妹の皆様。一教皇様は 強調しておられました一イエスと結 ばれようではありませんか。イエス

に信頼しようではありませんか。イエスの福音に従って生活を方向づけようではありませんか。日々祈り、神のことばを聞き、秘跡にあずかることによって養われながら。」[xiii]

一見して分かることですが、人体に は様々な器官や部分があり、それぞ れが全てを統率する脳の働きの下、 固有の役目を果たしています。それ ゆえ教会においても、神のお望みに よって「多様性があります。異なる 任務と職務があります。そこには平 板な画一件ではなく、聖霊が与える 賜物の豊かさが存在します。けれど も、そこには交わりと一致が存在し ます。すべての人は互いにかかわり 合い、キリストと深く結ばれなが ら、皆が協力して、生きた一つのか らだを形づくります。」[xiv] この教 会の見えない頭であるキリストとの 一致は、必然的に、見える頭である 教皇と使徒座に一致している司教と の固い一致によって表されるべきで

す。聖ホセマリアがしていたよう に、日々、聖なる教会の全員の一致 のために祈りましょう。

昔から言われているように、聖霊は、キリストの神秘体のふところの中で人間の霊魂のような役目を果たします。教会に命を与え、一致を保たせ、父なる神が予定された完全さに達するまで、教会を導きます。「教会は、物や利害の組み合わせではなく、聖霊の神殿です。神がその

はなく、聖霊の神殿です。神がその中で働く神殿です。この神殿の中で、わたしたち一人ひとりは、洗礼のたまものによって、生きた石となります。そこから次のことが言えます。教会の中で無用の人などだれもいません。(…) どうでもよい人などだれもいません。」 [xv]

同じ神秘体のメンバーであるキリスト者たちは、使徒信条で宣言している聖徒の交わりによって、聖性に達することができるようお互いに助け

合うことができるし、また助け合わなければなりません。さらに、全ての信者は

magnaliaDei, 神の宝物(信仰、秘 跡、種々の霊的たまもの)にあずかっ ているのです。「『聖徒の交わり』 という表現は、聖なる人々(sancti) の交わり、すなわち死んで復活され たキリストに恵によって結ばれた 人々の交わりをも指します。| [xvi] つまり、天国の聖人、煉獄で清めを 受けている霊魂、そしてこの世で内 的な戦いを続けている人たち、皆が 唯一の家族、神の子らの家族を作り 上げているのです。それは至聖三位 一体を替美するためです。このこと をどれほど真剣に心に留めているで しょうか。

聖ホセマリアは、この信仰の真理を 黙想し、慰めに満たされていまし た。洗礼を受けた人は霊的な戦いに おいても、世の中で障害に遭遇して も、孤独を感じたりすることはできないと確信していたからです。この ことを「道」にこう書いています。

「聖徒の交わり。どのように説明してたらいだろうか。からだに対して輸血がどのような働きをするりはきを力りはきを力りはきをうなして、「ない説」そして、「兄弟ことができないとと、大ちを助けてくます。したが忠いことを考えれば、もちを考えればできるだろう。」「xviii」

子どもたちよ、いつも活き活きとした人でありましょう。たとえ、つまずいて苦しむことがあるとしても、時に弱さを感じ、霊的戦いの力をなくすことがあるとしても、神の恩恵によっていつも、聖性を目指す歩みを再開することができるのです。私

たちは、数知れない聖人と、主に忠 実で、内的生活において絶えず再出 発を繰り返す多くの人々に取り巻か れているのです。

他方それは、天国に目を向けるとよ く分かります。また、15日に祝う聖 母の被昇天の祭日も私たちにそれを 確信するよう招いてくれます。聖母 は、私たち皆のために父なる神にお 願いしておられる[xix] イエス・キリ ストの仲介に親密に一致しておられ ます。キリスト信者と全ての人々の 救霊にいつも関心を寄せておられる 聖母を観想することは、私たちに非 常に大きな慰めをもたらし、その庇 護を完全なものにしてくれます。教 会は、聖母において、しみもしわも ない完全なものになっています [xx]。しかしながら未だに、私たち 全ての信者は、全面的に罪から離れ て、高貴な聖性の戦いに勝つよう努 めています。それゆえ、選ばれた 人々の全共同体のために諸徳の模範 として輝くマリアを仰ぎ見るのでる [xxi]。ですから、教会のあらいてはから、教会とにしまいなことにしませくにしませくにしませくにしませくにもない。聖母にはあたないにからんがはないにからながにいるのとしているがにいるのとにがいるがである。というであなたは新たな戦いに赴くだろう。 [xxii]

15日の汚れなきマリアの甘美な御心へのオプス・デイの奉献を更新するときには、全世界からこの嘆願が力強く天国に立ち上るでしょう。祈りのうちに固く一致して、慈しみ深い神に、世界と教会と一人ひとりに必要なあらゆる恩恵をお願いしましょう。

心からの愛を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

アロエイラ荘、2013年8月1日

[i] 教皇フランシスコ、2011年6月29 日回勅Lumen fidei 38番。

[ii] 同上40番。

[iii] 聖ホセマリア、1932年1月9日手 紙91番。

[iv] ベネディクト十六世、2011年10 月11日自発教令「信仰の門」。

[v] 「カトリック教会のカテキズム」781-810番参照。

[vi] 1ペトロ 2,9.

[vii] 聖ホセマリア、1972年6月4日説 教「教会に忠誠を尽くす」(邦訳「教 会を愛する」p.20)。

[viii] マタイ13, 24-30; 47-50参照。

[ix] 聖ホセマリア、1972年6月4日説 教「教会に忠誠を尽くす」(邦訳「教 会を愛する」p.20)。

[x] 同上。

[xi] パウロ六世、1968年6月30日教 皇宣言「神の民のクレド」19番。

[xii] 同上。

[xiii] 教皇フランシスコ、2013年6月 19日一般謁見の講話。

[xiv] 同上。

[xv] 教皇フランシスコ、2013年6月 26日一般謁見の講話。 [xvi] 「カトリック教会のカテキズ ム」の要約、195番。

[xvii] 聖ホセマリア、「道」544番。

[xviii] 同上 549番。

[xix] ヘブライ 7,25参照。

[xx] エフェソ ,27参照。

[xxi] 第二バチカン公会議「教会憲章」65番参照。

[xxii] 聖ホセマリア、「道」516番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2013nian-8yue/ (2025/11/26)